

# 燃料電池自動車及び水素ステーションの目標設定

## 1 燃料電池自動車（FCV）普及台数（2020年目標：6000台、2025年目標：10万台）

### 【目標】

○ 2030年の都内のFCV普及台数：20万台

### 【考え方】

#### 国内FCV普及台数

○国が策定した「次世代自動車戦略 2010」では、国内新車販売台数に占めるFCVの割合を2020年に1%、2030年に3%とすることを目標

○これを基に試算した結果、2030年までの国内FCV総販売台数は約70万台

（算定方法）

- ・2020年から2030年までの間、1%から3%まで均一のペースでFCV割合が上昇するものとして試算

#### 都内FCV普及台数

○現在、都内の乗用車保有割合は国内の約6.8%

○しかし、水素ステーションの整備は4大都市圏を中心に進むことから、2030年時点では、国内FCV総販売台数に占める都内の割合を、25%（1/4）程度であると想定

⇒ 約70万台×25%=約17.5万台 ≒約20万台

## 2 水素ステーション整備箇所数（2020年目標：35か所、2025年目標：80か所）

### 【目標】

○ 2030年の都内の水素ステーション整備箇所数：150か所

### 【考え方】

○国が「水素・燃料電池戦略協議会」で示した試算を基に、水素ステーションの水素供給量とFCVの水素需要量を算定

- ・水素ステーション1基の1年間の水素供給量：約11万kg/基・年
- ・FCV1台の1年間の水素需要量：86kg/台・年
- ・水素ステーション1基が確保できるFCV台数（稼働率70%と想定）  
⇒約11万kg÷86kg×70%≒900台

○2030年には、1ステーション内で2台以上同時に充填できる製造・貯蔵・充填設備を有する水素ステーションが全体の約半数を占めることを想定

⇒ 20万台÷900台÷1.5≒約150か所